

遊馬^{PLUS}

協 力：金沢ホースマンクラブ
協 賛：金沢競馬振興協議会
発 行 者：遊駿プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

2021年 4月

vol. 45

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>



JBCイヤーの金沢競馬

冬休みから明けて金沢競馬場に来るとあちらこちらが大きく変わっている事に気が付くだろう。

何と言っても今年はJBCイヤー。金沢競馬が再び全国から注目される日が来る。その日の為に、だけではないだろうが去年から金沢競馬は生まれ変わった。

◆白くなった馬場！

馬場の砂が従来の川砂から山砂へと入れ替えられ、去年に比べて白っぽくなったのが一目瞭然。愛知県瀬戸市の砂で名古屋や笠松の東海地区の競馬場に近くなったようだ。

実際にレースを終えた騎手からは川砂に比べて砂の粒子が細かいから当たっても痛くない、馬にも優しいと概ね好評。「世界で一番馬場が痛い競馬場」なんてもう言わせない。

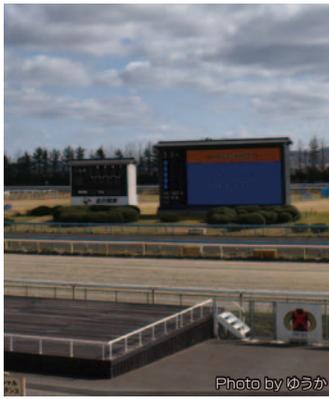


Photo by ゆうか

そんな馬場が変わった開催初日から速すぎると思われる程の好

タイムが連発。さらに三連単が八六三万七九四〇円の史上最高配当も飛び出て砂が変わってここまで変わる物かと言う変化振り。

流石にこれがずっと続くとは思われないが、秋のJBCまでにどんな顔をこの馬場が見せてくれるのか目が離せない。

個人的には晴れが続いた日にスタンド総砂被り席になる砂塵が少しは収まる事に期待したい。

◆明るくなったパドック！

パドックは路盤を新調し、内側の天然芝も総ウレタン化。パドックを歩く馬も人もどちらの脚に優しいパドックへと生まれ変わった。



Photo by ゆうか

この新パドック、脚に優しい事に加えて写真からでもわかるように見栄えがとてよくなった。

いかにも明るく、そこを行く馬の体も映えて見える。ネットで画面越しに観戦するファンに見やすく大いにアピールができそうだ。

ちなみに。冬休み中にパドックの待機所にも足場が組みまわついに電光

掲示板になるのか、と思われたが外壁が塗り直されただけで、手書きのボードはそのまま残った。変わる中でも変わらない物があるのだ。

◆綺麗になった大型ビジョン！

ついに、大型ビジョンが生まれ変わった。スクリーンの大きさが一・二倍と大きくなり、別々だった着順掲示板が一体化した。フルカラーLEDを使用し、鮮明かつ迫力のある映像が映し出されるのも嬉しい。

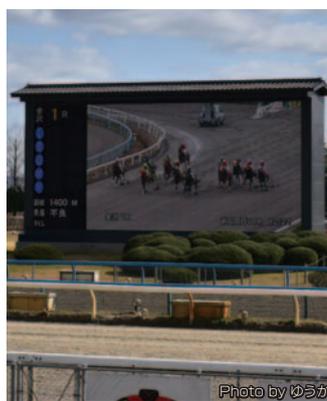


Photo by ゆうか

ちなみに瓦屋根はどうなるかと思ったが、新ビジョンでも金沢らしい瓦屋根が鎮座。ここにも変わらない物があつた。

他にも騎手のプロフィール写真の更新、スターターカーの更新等々細かな変更点も多い。全体的に映像配信を意識したような、そんな改修にも見える。

新しく、綺麗に改装されたこの金沢競馬場でJBCの大舞台を迎える事が出来るのか。今年はどうのような熱い戦いを見る事から楽しみである。

今年の注目ホース

JBCイヤーの今年。地元で行われるこの大舞台に地元から誰が参戦するか注目される。その候補になりそうな馬達は誰だろう。

▼ハクサンアマゾネス(牝四歳)

古くはトゥインチアズ、トラベラー。最近ではヤマミダンスと重賞戦線で活躍する金沢生え抜き馬は牝馬がなぜか多い。その流れに確実に入って来るのがこのハクサンアマゾネス。昨年の三歳時は石川ダービーなど三歳重賞四勝。師走の中日杯では紅一点ながらティモシーブルーなど歴戦の古馬を相手に四馬身差快勝。重賞五勝で金沢の年度代表馬となった。



Photo by ゆうか

冬休み中は南関東に期間限定で移籍。南関東のA2クラスの早春賞で二着に好走。次走のエンプレス杯(JpnII)はさすがに相手が強力すぎて七着。それでもJRA勢二頭には

先着と金沢では図抜けた存在。

距離は一四〇〇から二〇〇〇までと融通がかなり効きそうで、JBCスプリントからクラシックまでどこでも顔を出せそう。

金沢の総大将としてJBCに向かつてほしい一頭だ。

▼フジヤマブシ(牡四歳)

そのハクサンアマゾネスにMRO金賞で勝って重賞を制したのがフジヤマブシ。北日本新聞杯も制して重賞二勝、西日本ダービーでは他場の精鋭相手に一着から〇・三秒差の三着。これらが評価されて金沢の最優秀三歳馬に選定された。

十八戦中掲示板を外したのが北國王冠の一回(六着)だけと言う拔群の安定感が今年も健在であればJBCへの殴り込みも現実味十分。

何より、デビューから西日本ダービーまで手綱を握っていた平瀬騎手が復帰した事も大きい。手綱が戻ってくればこのコンビでまた金沢を大いに盛り上げてくれるであろう。



Photo by ゆうか

ちなみに。フジヤマブシは四番人

気以下になった七回中六回馬券に絡む走りを見せている。人氣が下がっていても馬券の対象にするという一頭なのかもしれない。

▼ファストフレッッシュ(牡六歳)

昨年は三歳が大活躍したお蔭でどうしても影が薄くなった古馬達。その中で今年の名前をよく目にしようなのがファストフレッッシュ。昨年JRAから金沢に移籍。特別戦では五戦五勝と無敵の強さを見せるも重賞では五着↓五着↓五着↓四着↓四着と安定感抜群の典型的な善戦マン。



Photo by ゆうか

しかし、年明け初戦の笠松での白銀争覇ではクビ差二着に食い込んで重賞級の力を見せる。金沢が開幕すると得意の特別戦を快勝して調子を上げて行つた。

母タフネスデジタルは全兄弟がジャパンダートダービーを制したカゼノコ。大舞台で期待できそうな血統に見える。今年初重賞となれば一気のブレイクもあり得るか。

▼サブノタマヒメ(牝三歳)

昨年の二歳戦線で怒涛の六連勝を見せて注目を集めたサブノタマヒメ。連勝が途切れてから連続で敗れて(それでも二着だが)どうしたか、と思われたが開幕初戦で前走敗れたフューリアス、自身が不在だった金沢シンデレラカップを勝ったマナバレンシアを下して快勝。やはり今年の三歳はこの馬が中心だと改めて認識させられた。

これから三歳重賞戦を戦うとなると相手は距離だけと言う感じか。この重賞戦線を勝ち抜いた先に待ち構えているであろうハクサンアマゾネス達の壁。その壁にどこで挑むことになるのか。秋の大舞台となればファンの期待は大いに膨らむ。



Photo by ゆうか

今年古馬も三歳も牝馬が優勢な年になりそう。JRAでも近年は牝馬が強くその流れがこちらにも来てくるのか。

彼女ら、彼らが今年どのような活躍を見せ、JBCに挑むのか。今から秋が待ち遠しい。

ハマシユキチヨウのフふふやき

今年、ニューヨークヤンキースに所属していた田中将大投手が東北楽天ゴールデンイーグルスに復帰、仙台のマウンドに背番号十八がマウンドに戻ってきた。

そして来年、二〇二二年のJBCは盛岡競馬場で行われる事が発表された。

楽天の田中の存在、金沢の翌年が盛岡のJBC。歴史は繰り返す、とよく言われるが：

前回、金沢のJBCは三競走とも中央勢の単勝一倍台の一番人気馬が優勝。と、言うよりも馬券圏内全て中央勢と圧倒的な結果だった。

しかし、JBCクラシックでは単勝六二八倍、金沢のジャングルスマイルがジャパンダートダービーを勝ったクリソライトを首差制して四着入線。史上初めて金沢所属馬でGIの掲示板を飾った。

今年また歴史が繰り返されるなら、再び金沢の馬が掲示板を飾るか。あるいはここにクリソライトの弟クリソベルでも出走してきたら歴史の歯車は再び回りだすのだろうか。

それより一番繰り返してほしいのは：ファンの歓声が大波のように場内を洗った、あの空前絶後の大観衆の前でJBCが行われる事だろう。

JBCは十一月三日。その日まで、健康に留意しながら待とう。